



脇祖さま報恩会

令和3年9月10日(金)

9時よりご本部式典がYouTube配信されます



法華経への信と人々への慈悲行を脇祖さまのお言葉から
学ばせて頂きましょう

心は

形に現れるものですよ。

合掌しあう心

信仰者は人さまを見下げたり、
争う心があつてはいけません。
皆が和になって合掌し合う心
で暮らさせて頂かなくてはな
らないのでございます。

実践が大事

大切なのは「法の学問を身で
学んだ人」「教えを聞いたたら、
守って実行できる人」でござ
います。

だれでも幸せになれる

他人さまの喜びを自分の
喜びとし、他人さまの苦しみ
は自分もその人の身になっ
て考えてあげる、という
異体同心の気持ちでやって
いったなら、どなたでも幸せ
になれるということとは本当
なのでございます。

仏さまへのご恩返し

自分の所にあるものは
仏さまから一時お預か
りしているものだと思
って、日々の暮らしに使
う以外の物は困ってい
る人に施さなければと
思っています。それが仏
さまへのご恩返しにな
るのだから。これは一生
実行する気持ちでさせ
て頂いています。

偉い人は

注意されたら、
素直に「ありが
とうございま
す」と受け取っ
て、自分の行い
を正すことので
きる人がいちば
ん偉いんだよ。



法華経に結縁される前の脇祖さまの人生は^{かんなんしんく}艱難辛苦の連続でした。

実母を5歳で亡くし、父の借財のために小学2年生で家族と離れ、^{ほうこう}奉公に出て、懸命に働きました。縁あつて結婚し、長女に恵まれ幸せな日々もつかの間、最愛の2歳のわが子を亡くして、離婚。再婚してお店(埼玉屋)を営み、病気がちで伏せていた頃、開祖さまとの運命的な出会いにより法華経に導かれました。その後、開祖さまと共に布教にまい進された脇祖さま。様々な苦悩の体験が、人生苦の悩み苦しみの中にいる人の心の^{きび}機微を見通され、人さまの苦に寄り添う人生に繋がっていかれたのだと思います。まさに慈悲と布施に徹しられたご生涯でした。

ご遷化から64年、今、コロナ禍で人と人との繋がりが^{きはく}希薄になり、先の見えない不安を抱える人々の中で、私たちはどんな慈悲行、布施行ができるのか。周りを見回し、共に考え、新たな心で布教精進をお誓いさせて頂きたいと思ひます。

合掌 教会長 齋木淑江